

古関裕而氏を活かした にぎわいの創出に関する提言 (経済民生常任委員会)

調査の目的

経済民生常任委員会においては、本市の名誉市民である古関裕而氏とその妻、金子氏をモデルとした連続テレビ小説「エール」が令和2年3月30日より放送開始となり、全国的に古関氏と本市への関心が高まっている状況を追い風として、本市の交流人口の拡大とまちなかのにぎわい創出につながる施策が必要であることから「古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査」を行った。

市に対する提言

1 エールレガシーの積極的な活用について

- (1) NHKとの連携をさらに深め、エールで使用したロケセットや小道具等を譲り受け、駅周辺施設などで展示するなど、放送終了後も、エールを活かした観光PRを続け、まちなかの回遊性向上につなげるべきである。
- (2) ロケ地情報を一覧にしたロケ地マップを作成し、観光施設などに配置することで、観光客がロケ地巡りを楽しみやすい環境づくりを進めるべきである。

2 古関裕而記念館を中心とした近隣施設や商工団体、他自治体、他事業との連携について

- (1) 古関裕而記念館の混雑時の待ち時間を活用するため、隣接する音楽堂など近隣施設とさらなる連携を図り、一体となって訪れた方へのおもてなしのより一層の強化を図るべきである。
- (2) 市当局と商工団体が連携してまちなか回遊のためのしくみをつくり、その情報を古関裕而記念館から発信することや川俣町、本宮市との広域連携、金子氏のふるさとである豊橋市との交流促進も図るべきである。
- (3) 旅行代理店等と連携し、本市自慢の花見山やくだもの狩りと古関裕而記念館をセットにしたパッケージツアーの促進を図るべきである。

3 音楽文化の継承と音楽による人材育成、まちづくりについて

- (1) 古関氏の功績や楽曲を若い世代に伝承していくことで、本市への誇りや愛着、将来への希望が生まれることから、伝承の機会を増やし、継続していくべきである。
- (2) 古関氏の名を冠した作曲や編曲等のコンクールを創設し、市内外の音楽家に幅広く参加していただくことで、本市ゆかりの音楽家として成功するきっかけをつくり、人材の育成につなげていくべきである。
- (3) 音楽によるまちづくりの浸透には継続的な取組が必要なことから短期的な施策に加えて、音楽文化の振興を図る長期的なビジョンを持ち、行政と市民、団体等が協働で目指すまちづくりの方向性を示すべきである。